

おばちゃんち



140-0001品川区北品川2-28-19 品川宿交流館3階 TEL03-3471-8610 E-mail:fureai@obachanchi.org http://obachanchi.org/ 発行：2018.06

小さなお子さんをお預かりすること

ふれあいの家-おばちゃんち 代表理事 幾島博子



おばちゃんちには、「ふれあい」「あすかり」「学び」「つながり」「企画」という5分野に約20の事業がありますが、「あすかり」事業について改めて考えてみました。「あすかり」事業は次の3つです。

- *子育て交流ルーム 品川宿おばちゃんち「ほっぺ」
- *子育て交流ルーム 昭和通りおばちゃんち「わっこ」
- *サポーター派遣保育「えくぼ」

「ほっぺ」は開設して10年、「わっこ」は5年が過ぎました。いずれも商店街空き店舗事業とのコラボレーション事業として開設しました。月～土曜日の9～17時に乳幼児を数名～10数名おあすかりしています。保育園ではないので、その理由は短時間のお仕事、家事、通院、保護者会、講座参加、リフレッシュと様々で、毎日あすかる顔ぶれは違います。でもほとんどの保護者の方が和らいだ表情でお迎えにみえ、スタッフも笑顔になります。「困った時のおばちゃんち」の役目が果たせた時に、なによりもやりがいを感じているのです。

会員情報 (5月末日現在)

正会員	43名
支援会員	194名
賛助会員	4名
計	241名

年会費・ご寄付は

郵便振替

00120-3-583720

NPO法人ふれあいの家-
おばちゃんち

「えくぼ」は、講演会や講座、会合等を行う際、その会場の近くに保育をする場を用意してもらい、そこにおばちゃんち認定子育てサポーターを派遣して、講演会等の開催中にお子さんをおあすかりする事業です。ここでも、あすかるおさんは毎回違い、別れ際に泣く子も少なくありませんが、やがて遊びに熱中して笑顔になり、お迎えにみえた方がびっくりされることも少なくありません。自分の子どもが安心して過ごすことのできた場のおばちゃんだからこそ、お母さん方も信頼を寄せて、お迎えにみえた時にちょっとした不安の相談やぐちを話す方もいます。お子さんをあすかるだけでなく、そんな風にお母さん方の役に立てることがとてもうれしいとおばちゃんたちは言います。

いずれの事業でも、お子さん、保護者、そして保育者にとって、ホッとできる温かみのある場であることは共通しています。どんなに小さなお子さんでも、自分に関わる大人同士が信頼関係で結ばれているということを肌で感じることは、人を信頼する気持ちに基づいた心の基地を作り上げていけることに繋がっていると思います。

「お母さんだから、四六時中休みなく赤ちゃんといっしょにいないてはならない」のは辛いことです。信頼できる人におすけることは、小さいお子さんにとっても心の基地を作る大切な時間なのだと思うのです。

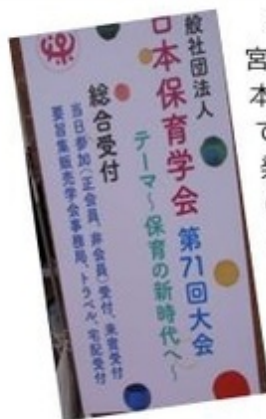
身近におばちゃんちの「あすかり」事業があり、「困った時には頼っていいんだ！」と思っていたいただき、お母さん、お父さんに少しでも心のゆとりや安心感が生まれればいいなと思っています。

ご寄付ありがとうございました (5月末日現在)

島田都志子様、昭和通り商店会田代敏郎様、関亜希子様、南百合子様、金井豊明様、鎌上茂樹様、山田巴様、鈴木美紀子様、須藤マルキット様、波多野真樹様、金崎久一様、にじっこコンサート実行委員会、宮里和則様、和久井良一様、香港上海銀行、イオンリテール株式会社、他匿名希望1名様(順不同)

日本保育学会に参加して ～みこちゃんちの実践から～

おばちゃんち副代表理事 岩崎 みつ子



2018年5月13日(日)、仙台の宮城学院女子大学で開催された「日本保育学会」第71回大会に参加してきました。東日本大震災・福島原発事故からの7年目を迎えた東北の地で開催される今大会のテーマは「保育の新時代へ」です。参加者が3千人を超える大きな大会の自主シンポジウムのひとつ、「子育て支援の在り方を問う～育ちあう関係づくりに着目して～」(企画者:宮里暁美先生・お

茶の水女子大学)の話題提供者として、東京家政学院大学「児童学科 幼児グループの実践」、文京区立お茶の水女子大学こども園「おちゃっこ親子ひろばの実践」と共に、NPO法人ふれあいの家—おばちゃんち「ふれあい広場・みこちゃんち」の実践報告をしました。

東京家政学院大学児童学科幼児グループ活動

親子、学生、教員が参加し共に育ちあう活動で、就学前の1年間(全20回)継続して親子(約15組)が集う集団活動。

◆幼児グループ活動で大切にされていること

- ・子どものつぶやき、しぐさ、していることを活かし遊びにしてみる。さらにみんな(子どもたち、学生、親たち)が参加できる場面を創る。親が安心して語れる、参加できるグループの場をつくる(場所・時間・心理劇の活用)
- ・20回のグループの成長、参加者一人ひとり(親、子ども、学生)の成長を喜び合う。

◆親グループの活動で取り上げたテーマ例

祖父母、父、きょうだいとの関係など家族関係の変化、関わり方について、幼稚園選びについて、スマートフォン、テレビとの付き合い方について、トイレトレーニングについて、食事習慣(食べる量、遊びながら食べる、偏食など)について、いやいや期(子どもの自己主張)への付き合い方…他に参加する子どもの姿、親の姿などの紹介と報告がありました。

文京区立お茶の水女子大学こども園 おちゃっこ親子ひろば

在園児が散歩に出掛けている間に保育室を利用することでスタート。0歳児広場6名と1・2歳児広場8名が月1回9時45分～10時45分の1時間5回継続して集い、同年齢の子どもが生活する空間で遊び語り合う。時には大学構内に散歩に行き、こども園の園児と出会うことが、参加親子にも迎える園児にも新鮮で嬉しい時間になっている

◆お茶の水女子大学こども園の子育て支援の目的

- ・専門性を活かし子育て支援事業を実施する
- ・親にとっても子どもにとっても、豊かでより健やかな成長が促進される子育て支援とは何かを考え実践する
- ・「親の自己決定を尊重する」「子育ての喜びを感じる」「育ちあう関係が作られる」子育て支援の内容について検討し実施する
- ・文京区と国立お茶の水女子大学が協働で設置したこども園としての特性を生かした、地域に開く子育て支援事業の内容の検討を行う

◆おちゃっこひろばで大切にしているポイント

- ・参加者と一緒に活動を創ること
- ・多様な参加者の関係を適度な距離感で育むこと
- ・あたたかな雰囲気・場づくり
- ・親にとっても子どもにとっても安心できる遊びや語り合いの場であり、新しい体験の場となること
- ・こども園の生活とゆるやかにつながりを感じることに他親子広場のプログラム例や活動のねらいと活動内容等々の報告がありました。

NPO法人ふれあいの家—おばちゃんち ふれあい広場・みこちゃんち



まず、おばちゃんちの子育て・子育てにやさしいまちづくりを!100軒のおばちゃんち・100人の仲間を!と、事業一覧を報告して、次にみこちゃんちの歩みと活動紹介をしました。

みこちゃんちは、毎週月曜日11時～15時開催。親子で自由にきておしゃべりしたり、遊んだりお弁当食べたり…と思いいいに過ごせる親子広場で、特色はあずかり広場

「ほっぺ」と同時進行していること。あずかりの子が、広場の赤ちゃんをあやしたり一緒に遊んだりお母さんに甘えたりと、ほほえましい姿もみられる。授乳中でも飲めるノンカフェインのコーヒーを飲んだりスタッフの手遊びを皆で楽しんだりしている。



東京家政大学幼児グループ活動やお茶大こども園との違いは、他2つの広場は毎回参加者が決まっているが、みこちゃんちには常連さんはいても、毎回同じ人とは限らない事、特にプログラムは用意していない事があげられる。みこちゃんちに初めてきた方は、スタッフが皆さんに紹介したり常連のお母さんが声をかけてくれたりしている。「ここは一人で来て大丈夫と聞いてきました」というお母さんもいた。初めての方も安心できるのは、こじんまりとした狭さが家庭的雰囲気なのかも…そしておばちゃんたちの笑顔も…。特に時間、場所を設けるという事ではなく、遊びながら食事しながらお母さんのどうしたらいい？の声を聞いている。

2017年度の相談内容で多かったのは、ご飯を食べてくれない・食事中座ってられないというお母さんの悩み。「食べてほしいから追いかけても食べさせてしまう」という声には「そうだね！食べてほしいよね！」と思い共感してどうしたらいいかを一緒に考えてみる…ということを大切にしている。お母さんの行動を否定せず、見守るのも大事、アドバイスも大事と思っている。

◆すてきなおばちゃんになるための6か条

おばちゃんちのスタッフとして大切にしたい6か条があり、毎月1回の会議で確認しあっている。

- 1・子どもに話しかける時はそばに行って小さい声でやさしく話しかけましょう
- 2・「～してはいけません」という否定はやめましょう
- 3・子ども同士の関わり合いを見守りましょう
- 4・おばちゃんのやる気をお互いに尊重しましょう
- 5・子どもの成長を共に喜びあいましょう
- 6・保護者の抱える悩みや重荷を少しでもおろすお手伝いをしてみましょう

ありのままの子どもの姿・親の姿を丸ごと受け止め「大きくなったね！」「頑張ってるね！」と子どもの成長した姿を喜び合い、子どもにとっても親にとってもスタッフにとっても居心地の良い育ちあえる場であり続けたいと思っています。おばちゃんちを立ち上げた渡辺美恵子は、おばちゃんちが子育て支援という枠だけではなく＝まちのこどもをまちで育てる＝人と人がゆるくつながるまち＝あたたかい風がふくまちへ＝温かさを持つ人が10人いれば冷たい風の人人が5人いても住んでいける。そうするとその5人も温

かい風に巻き込まれていく。赤ちゃんから高齢者までがこのまちで生きることが楽しいと感じられるそんな「風」でありたい…と言っていた。「できることをできるだけ楽しく」をモットーに、これからも人間味のある関わりをつなげてお母さんたちの「子育て力」を応援していきたい…と報告を終えました。

指定討論者の吉川先生より、3か所の共通点は＝やわらかさ＝という事と、最初の不安をどう解消しているか？方法論があるのでは…支援者側のチームワーク・関わり方・役割の取り方は…等の質問がありました。参加者の方からもそれぞれの子育て支援の実情と悩み等が話され、意見交換しました。参加者は30名位でしたが、中身の濃い有意義な時間を過ごすことが出来ました。

会場には東日本大震災写真展や復興マルシェ&カフェがあったり…ポスター発表・企業展示もあり、たくさんの方の熱気であふれていました。私も久しぶりに勉強した！！語り合った！！と思った保育学会参加でした。



そのままその日は仙台のホテルでゆっくり過ごし、翌日は松島観光…雄島を散策したり観瀾亭で松島湾をながめながら抹茶を飲んだり観光船に乗ったり、瑞巖寺にも行ってきました。

松島周辺は松島湾内に点在する島々が緩衝材となり津波の勢いを弱めたといわれていますが、瑞巖寺の「3・11の津波到達地点」をみて、ここまできたのだ…と改めて感じました。

東日本大震災から7年たちましたが今回保育学会に参加して、改めて2011年3月11日東日本大震災で起きた様々のことに、心を寄せ続けていきたいと思いました。



(編集後記：岩崎理事は、にじっこコンサートの実行委員長をつとめ、チケット売上金のうち経費を差し引いた金額を、東北地方の子ども支援団体へ寄付しています)

おばちゃん 良かった!

—おばちゃんちの現場から—



日頃、おばちゃんちで活躍する「おばちゃん」たちに、「活動していて良かった〜!と思う事」をインタビューしました!(協力してくれたみなさん、全部載せられなくてごめんなさい!忙しい中、ありがとうございます!)

おばちゃんちが品川の地で始めて16年目、地域の中で素敵なおばちゃんになるために『良質なおせっかい』、『おばちゃん6か条(P3参照)』など、この紙面ではお伝えきれない名言の数々があり、そのボランティアな活動の根っこには、お

互いに水平な関係で相手を尊重し合う姿があります。そんなおばちゃんを毎年輩出する子育てサポーター養成講座が、今年も始まっています。公開講座【2018年9月13日(木)】にはどなたでも参加できます!(要申込)

子どもの笑顔に囲まれ、笑ってすごせてHappyです

おばちゃん同士の交流が楽しい♪

いつも子どもの笑顔にいやされ、POWERをもらい、活動しに行くのが楽しみです♪

子どもたちとふれ合えて、自然に笑顔になれる。みんなかわい〜!!

子どもと接するときにあせらずにゆったりとかまえられるようになっていく自分が!

保育をして自分が成長できているのに、お母様から感謝されることがとてもうれしいです

子どもたちの寝顔、笑顔にいやされて、元気もらってます。おばちゃんちに居ると家に帰って自分の子どもたちにも優しく接することができてます

幼い子どもたちから、いっぱいエネルギーをもらえる

短い時間、子どもたちもがんばっている、私たちも楽しい時間が過ごせるよう子どもたちに共に寄り添ってあげたい

子どもたちが笑顔でいるのを見られると、幸せだなあとします。ママたちが「助かったあ」と言ってくれるのもうれしいです

いろいろなお子さんやお母さんたちと親しくなれた

乳幼児とたのしく遊べるので嬉しいです。ママたちとも育児の喜びや大変さの話が出来るのも楽しいです

笑顔がいっぱい楽しく過ごせる場所です

笑顔にいやされています

子どもたちと公園で遊ぶのがとても楽しいです。小さな赤ちゃんのお世話が楽しくて、また子育てしたくなりました

2018年度 おばちゃんち
子育てサポーター養成講座公開講座
あなたも保育者になれる
～子どもの心に耳をすますためのヒント～

講師：青山誠氏(保育士)
日時：2018年9月13日(木)
10:00~12:00
会場：きゅりあん 5階第二講習室
参加費：500円 定員：40名
申込：fureai@obachanchi.org



子どもさんやお母さん、私たちスタッフにとっても「おばちゃんち」はかけがえのない場所になっています

目標が同じ友だちが増えた

人に対して、やさしい気持ちをもてるようになりました

ママとわかれて泣いている子が、帰るころには笑顔でタッチ! 元気もらってま〜す

安全を見守りつつ、いつまでも若くいられる秘訣です



しながわ子ども食堂フォーラム2018 ～地域で支え、育てる子ども食堂～

写真提供：品川ボランティアセンター、子ども食堂ネットワーク事務局

2018年6月9日（土）きゅりあんにて、『しながわ子ども食堂フォーラム2018～地域で支え、育てる子ども食堂～』が開催されました。現在品川区内で活動している主な子ども食堂の紹介パネル展示のほか、相談コーナーや試食会もあり、子ども食堂ネットワークの仲間が、朝から調理室でお手伝いして用意した試食はざっと200食！

午後からは、社会活動家で法政大学教授の湯浅誠さんの基調講演とパネルディスカッションがありました。登壇したのは、湯浅さんと、品川での子ども食堂活動の草分けともいえる、クロモン子ども食堂の薄葉聖子さん、子ども食堂ふたばの小野幸子さん、企業を代表して株式会社トリドールHD、株式会社モスフードサービスのCSRご担当者といったバラエティに富んだ顔ぶれです。運営者側の視点、支援者側の視点でそれぞれの現状が伝えられ、事務局である品川ボランティアセンターが、行政と企業と運営者をうまくつなげている様子がよくわかりました。湯浅さんか



からは、全国的に見ても品川はうまくいっている事例ではないかとのコメントが。来場者からも、このフォーラムに参加したこ

とで「子ども食堂」への考え方が変わったなどの声が聞かれ、相変わらず関心の高さがうかがえました。

また、会場では昨年11月に作成されて大好評だった「しながわ子ども食堂MAP」の第二版が早くも作成・配布されました。出来たてほやほや、新しく活動を始められた方々の情報満載です。このMAPは区役所や各地域センターでも配布しているそう



△品川区長も各ブースを熱心にまわっていました



△パネルディスカッション終了後、参加者が子ども食堂の運営者と直接、話をする機会も、地域の課題を語り合う姿も見られました

です。新しい活動については、webでも随時更新されています。
<http://shinashakyo.jp/kodomonet/>

これから子ども食堂を始めたい方、手伝いたい方、場所を提供できる方、食品を寄付したい方、うちの近くではやってないの?などのお問い合わせは、品川ボランティアセンター「しながわ子ども食堂ネットワーク事務局」03-5718-7172までどうぞ。（く）



活動報告



内閣府青年国際交流事業の地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」の「NPOマネジメントフォーラム」のトピック2「地域と繋がるためのコーディネート能力」視察先として、ドイツ、オーストリア、ニュージーランドから来日していた12名のNPOで活動している青年が、おばちゃんちにみえました。品川宿おばちゃんちと北浜こども冒険ひろばを、英語の堪能な片山理事と一緒にご案内し、お互いのNPO活動事情についての意見交換ができました。（IKU）



またきてね〜!!

フリー保育士… 何かできるかな？

にじっこ / フリー保育士
駒崎 圭子

ーマンホールの周りをグルグル。すっごく楽しいんだらうな〜

悪魔から人間へ…？

保育士になりたての頃に、「子どもを泣かせない保育士は悪魔だ」と上司に言われ、反発を覚えました。そして、冗談めいた一言だったのに、なぜか事あるたびに思い出されていました。なぜだろう？現場を知らない上司にそんな言われ方をされて腹が立ったのか？一生懸命やっているのに、やればやるほど悪魔なんてそんな理不尽な仕事じゃないと思ったからか？笑顔で母と離れ、笑顔で過ごすのは悪いことなのか？…なんてたまたま考えながらも、自分の中での気になり方も、その、気になっている理由もすっどぼんやりしていました。

しかし保育の現場を離れて、私自身が出産し自分の子育てをしていく中で、頻繁にこのフレーズが思い出されるようになりました。そして、やっと色々はつきり見えてきたように思います。たしかに、子どもを泣かせない保育士は悪魔、というよりも、私は悪魔だなどはつきりわかったのです。悪魔という言葉は過激すぎますが、子どもの泣きたい気持ちをこまかに、親にもうわべの

安心を提供する…という少しは穏やかに聞こえるでしょうか。おそらく私はそれが得意な保育士だったのです。そもそも、反発を覚えたという時点で、きっと自分のことを言われ、何か引っかかっていたのですね。自分が子育てをしていく上で、このよろしくない事実をどうしていこうと考えた結果、自分だけの考えや感覚で子育てをするのをやめようと

一雨の日のお散歩も大人気♪

決めました。いろんな人と一緒に子どもをみてもらおうと。そこでおばちゃんちにも出会うことができました。

せっかく明瞭に気づいたので、保育の現場に戻ったら、やっと本物の保育士になれるべく一歩を踏み出せたのかもしれないのですが、同時に、初めて見ることができたこの子育ての世界があまりにも広すぎました。あまりにも衝撃的でした。オムツの裏と表がわからず助産師さんに怒られるキャリアウーマン母や赤ちゃんの抱っこ仕方がわからなくて一歩も動けない母が隣にいる…20年近く働いていた世界、ものすごく近くにいたのにこんなにも何も見えていなかったなんて！と愕然としました。そもそも、保育園や幼稚園が子育て支援の一環であるという認識自体薄かったこともあり、一気に「子育て支援」という世界に興味がわきました。もしかしたら自分ができることがあるかもしれない…子どもの泣きたい気持ちや、親の不安な気持ちを、とにかく直に感じて一緒に考えたい！！という気持ちが溢れてきてしまったのです。

やらなくちゃいけないことなんて そんなはない！

保育園に勤めていていつも思っていたこと…子どもと24時間一緒にいるなんて無理。お母さんって、親ってすごいな〜といつも他人事のように思っていました。毎回違うお子さんを短時間お預かりする一時預かりは、とても難しく苦手でした。子どもにとって、毎日同じ時間に同じ場所で同じ人と過ごすより、時折知らないところに行って知らない人と過ごす方が負担が大きいのではないかと。子どもの特徴もつかめないので、信頼関係が築けないまま過ぎてしまうようで疲れました。また、見守り保育（お母さんも同じ場所にいる中で、お母さんが作業に集中できるようにお子さんと

しゃぼん玉をくっつけたいが〜





→何かを見つけて真剣に見ている子どもたちを見るのが大好き！後頭部の写真が増えます

→もぐらの穴を発見！すぐに杭でホリホリ…そのうち違うものを発見します



→いっぱい走れる広いお部屋だけれど、箱の中の居心地も最高のようです

→みんなで手をつないでお部屋の中もお散歩。和室は気持ちいい～



遊んでフォローする)、これもなかなか難しい。お母さんが近くにいたら、私たちが勝てるわけはありません。そもそも勝ち負けではないけれど、やりにくくて避けたい仕事の一つでした。そしてもう一つ、考え方が自分とは違うお母さんたちとの交流。合わない人は避けていた方が楽に仕事ができるでしょう。

そんなに苦手意識を持っていたことなのに、なんと！どれもやってみたくなくなってしまいました！子どもやお母さんたちにとっての“楽”な環境を考えたくて仕方なく、自分が子育てしていく中で変化してきた“やらなくちゃいけないことなんてそんなにない”という、今の自分の思いを伝えるのには、この3つ（一時預かり、見守り保育、親子ひろば）は大切な場であるように思えました。

子どもをじーっとゆっくり見る時間…そこには発見と感動と幸せと楽しさがつままっているはず。そこをのんびり一緒に考えたり、伝えたり、気づいたりしたくて、集団でのいわゆる保育所保育を飛び出し、苦手なことに挑戦してみるにたどり着いたのです。

さて、どうしていこう？

一人でできることには当然限りがあり、利用したい人、一緒に過ごしてくれる側にも好みがあります。一人でも多くの人に自分が居心地の良い場所で“楽”を求めてもらいたいと考えるうちに、屋内、屋外、集団、個別、予約制などなど、いつの間にか何種類もの形のひろば

こまちゃん（駒崎圭子）のプチ・プロフィール

フリー保育士。保育に関わってやば20年余。公立保育園のアルバイト時代、3～6ヶ月おきに園を移る（同じ園に勤め続ける事が出来ない）きまりだった為、結果として18ヶ所以上の保育園を経験する。現在は9ヶ所の現場に関わり、親子ひろば「つくいた」（品川宿いどばた）、「にじっこ」（おばちゃんち）などで多くの母たちを支え、「そとぼ～よ!」（そとぼ～よ）、「もくりんぴっく」（外遊び応援）で、小さな子の初めての外あそびをサポートしている。同時に、子育て支援の会社（K-HOUSE）を立ち上げて、現在も進化中！家に帰れば、幼稚園児の母。



や、あずかり、チャレンジの場などが増え、関わらせていただくものも増えてきました。子育て支援と一言で言っても支援の幅は、助成金から図書、保育園、幼稚園、スペシャルニーズ、親子ひろば、企業型イベントなどなど本当に多岐にわたり、知らないこともたくさんです。そんな中で、2015年4月からスタートしている子ども・子育て支援新制度からもうかがえるように、従来の子育て支援だけではなく、“子どもの育ちの支援”がより大切になってきていると感じます。“子育て支援の視点から子育て支援を考える”を軸に、様々な人と関わりながら自分にできることを続けていきたいと考えています。

様々な人が関わるから様々な人が居心地の良い場を探せる、答えがない、答えが都度変わっていきける感覚が好きで続けているこのお仕事。フリー保育士と名乗り始めてみてまだ3年ほどですが、こんな熱い想いで勉強&模索&走り続けているところです。今でもちよくちよく悪魔は顔を出しますが、だいた人間に近づけていると思います。

趣味は何ですか？将来どうなっていたいのですかと、大人になってから聞かれると、特に何もなく、答えに迷うことも多かったのですが、最近は、趣味は、乳幼児に勝手にアテレコをつけること。将来は職人になれていたら良いなど答えるのがスッキリしています。なんの職人になれるのかもわかりませんが、なれないかもしれないけれど、都度、ゆるく目標をたてながらやっていけたら良いなと思っています。

→アリのひたすら見る！じーっと、見る!!



おばちゃんち かつどうよてい



おばちゃんちからのお知らせは、twitterやfacebookでもチェック！ <http://obachanchi.org>



- 1.開催日：毎週月曜日
(祝日は休みます)
- 2.時間：11時から15時
- 3.参加費：1家族100円
親子でお出かけください！

みこちゃんち

会場：品川宿おばちゃんち
(品川区北品川2-19-6)

しょうちゃんち

会場：昭和通りおばちゃんち
(品川区西中延2-18-1)

しながわこども 冒険ひろば

- 1.開催日：月火水土日
(木・金休、祝日は開園します)
- 2.時間：10時半から17時半
- 3.会場：しながわ区民公園・
しながわこども冒険ひろば
(品川区勝島3-2-2)
- 4.参加費：無料

北浜こども 冒険ひろば

- 1.開催日：月火水木金土
(日・祝休)
- 2.時間：14時から18時
※第1・3水曜日は11時開園
- 3.会場：北浜公園・
北浜こども冒険ひろば
(品川区北品川2-28)
- 4.参加費：無料

ほっと・サロン@八潮 にじっこ

- 1.開催日：祝日を除く毎週木曜日
- 2.時間：13時半から15時半
- 3.会場：こみゆこいていぷらざ八潮1F託児室
(品川区八潮5-9-11)
- 4.参加費：1家族100円 (初回無料)



お友達でも
産婦人科でも

乳幼児親子ひろば そとぼ～よ！



毎週火曜日、
10時半から14時
子どもたちに思いっ
きり外あそびを楽し
んでほしい！
0歳からの初めての
外あそびを
サポートします！

品川宿 忍者修業の旅

- 1.開催日：春・秋
- 2.時間：13時から15時半
- 3.会場：北品川商店街周辺
- 4.参加費：無料
※2018年度の開催日については
webをご覧ください

【2017年度 イオン黄色いレシートキャンペーン報告】

毎回、たくさんの地域の方のご好意を頂戴するイオン黄色いレシートキャンペーン。2018年4月21日(土)に2017年度分の贈呈式に参加し、57,900円のギフトカードをいただきました。早速、おもちゃ(お絵かき、折り紙、パズル等)、衛生用品(おしりふき、虫よけ、バンドエイド等)、文房具など、おばちゃんちの活動に必要なものを購入しました。ありがとうございました。毎月11日にイオン品川シーサイド店でおばちゃんちのおばちゃんを見かけたら、お気軽に声をかけてください。引き続きよろしくお願ひします。

あずかり
の場

サポーター派遣保育 えくぼ

自主サークルや団体が講座や講演会などを行っている間のグループ保育に、おばちゃんちの認定子育てサポーターを派遣します。活動の主旨などによりご利用条件が異なります。詳しくはお問い合わせ下さい。



©Yoko Takahashi

子育て交流ルーム



「品川宿おばちゃんち」

ほっぺ

tel.03-5463-6458
品川区北品川2-19-6

「昭和通りおばちゃんち」

わっこ

tel.03-5749-3212
品川区西中延2-18-1

月曜から土曜までの、9時から17時まで(土曜は予約状況で変更することがあります)、おばちゃんち年会費2500円で両方の施設をご利用いただけます。理由はいろいろありません。4時間までの基本保育料は品川区在住在勤の方は1時間500円、4時間を超える延長保育は1時間600円になります。
*** 区外の方はご利用条件が異なります。詳しくはそれぞれ上記電話番号へお問い合わせ下さい。